

# こぴと通信17号

壊れかけの  
畑のラジオ

畑仕事の友、ラジオ。  
自分の守備範囲にない音楽や、  
色々な職業の人の話が聴けるのが  
ラジオのいいところ。  
我が家の畑ラジオは、上も裏も  
カバーが取れ、ホコリまみれ。

一昨年、裏の畑で、雨の後、  
バケツの水につかっているこの  
ラジオを発見！  
慌てて電池を抜き、何日か  
乾かして、おそろおそろ電源  
を入れると、無事に音がなっ  
びっくり!!  
生命力を感じました。



ラジオの裏にある  
「SONY AM RECEIVER ICR-S71」  
で検索してみると色々な情報が..  
「単1電池2本で約170時間の  
使用が可能な長寿命設計」

1986年に発売で2014年に  
生産完了〜  
新しい畑用ラジオをホームセンター  
で探しても電池4本必要な物  
しか見つかりません。  
求む! 生産復活!



みんなで読んで下さい  
まわし読み



ちよっと食べ頃を  
過ぎてしまった枯露柿  
を使って、バレンタイン  
のプレゼントにも  
ぴったりな、  
チョコレートのお菓子は  
いかがでしょうか？



枯露柿の  
チョコレート



秋になると、車を運転しながらでも、きれいな干し柿のカーテンがこちらに下がっているのを楽しむことができます。この辺りでは枯露柿（ころがき）と呼ばれています。

「いびつと通信9号」の「ころ柿特集」あの人を枯露つと落とすじゃんキャンペーン」に続き、「チョコころ柿」のレシピを紹介します。

普段はあまり食べる機会がないという方も、枯露柿の味わい深い甘味を知るきっかけになれば嬉しいです。



**材料**

800ml  
15.6cm x 15.6cm  
の容器  
10分です。  
1口サイズ  
で25コ前後。

クリームチーズ・・・100g

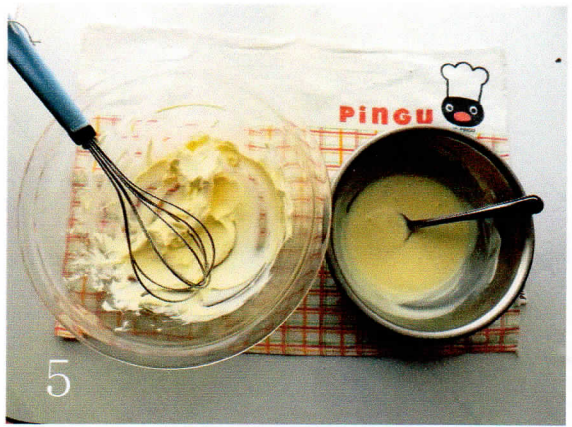
ホワイトチョコ・・・45g x 2枚

枯露柿・・・約150g

クルミ・・・30s 50g

⑧ 枯露柿とクルミの割合が多いと崩れやすくなります。

クリームチーズとチョコが  
だいたい1:1ならOK。



**作り方**

① クリームチーズは室温に戻しておく。

② 枯露柿は種を取り刻む。

クルミも割って小さくしておく。

③ ホワイトチョコは細かく割って湯煎で溶かし、粗熱を取る。

湯煎のお湯は少なめで、チョコにお湯が入ると失敗の原因に！

④ クリームチーズをへうで柔らかく練る。



⑤ クリームチーズにホワイトチョコを少しずつ入れ、泡立て器で混ぜる。

クリームチーズとチョコが分離しないように、最初は慎重に少しずつ！

⑥ 5に枯露柿とクルミを混ぜる。

⑦ 型に入れて、平らにならし、冷蔵庫で冷やして固める。

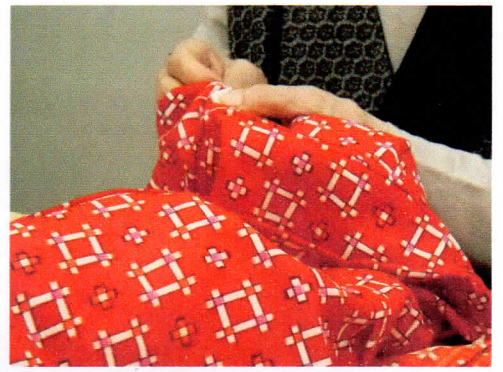
⑧ 熱湯で温めた包丁で一口大に切り分ける。

形が崩れてしまった時は、ラップに包んで丸く整える。お好みでココアパウダーをかけてもOK。

クッキングシートをしいてください

タッパー、バット等  
ある物で！





ほどいて、縫って、しゃべって

手作りボランティアの30年



11時頃になると、誰からもなく「そろそろおしまいにしよう」と声がかかります。糸くずいっぱいの床をきれいにした後はお茶の時間です。当番制で用意するお茶菓子と、季節の果物や手作りのお漬物を囲んでの四方山話。料理のこと、家族のこと、様々な情報が飛び交います。ほどき終わった着物はそれぞれが家に持ち帰り、洗濯してアイロンをかけ

## つみくさ会

木曜日、甲州市役所の階段を降りて

地下1階に着くと、におやかな話し声

が聞こえてきます。ボランティアルーム

の扉を開けると、テーブルの上に色とり

どりの着物が並び、手作りボランティア

「つみくさ会」の皆さんが、せせと着

物をほめています。

11時頃になると、誰からもなく

「そろそろおしまいにしよう」と声がか

かります。糸くずいっぱいの床をき

れいにした後はお茶の時間です。

当番制で用意するお茶菓子と、

季節の果物や手作りのお漬物を

囲んでの四方山話。料理のこと、家族

のこと、様々な情報が飛び交います。

ほどき終わった着物はそれぞれが家

に持ち帰り、洗濯してアイロンをかけ



すてきな飾りが完成

好きなか上手くないかのも楽しい?! ♪



↑この生地で何を作ろうかな...



この日は、コースターを使ってクリスマス飾り作りから、きれいなリボンの結び方レッスンに... ♪



ます。そうしてきれいになった生地は、素敵なスモックや作務衣等の作品に生まれ変わります。

「つみくさ会」のメンバーは30代から80代まで、十数名。甲州市が地元の方もいれば、一度県外で暮らして地元に戻ってきた方や、新たに移住した方もいます。その活動は、移り住んできた方の仲間作りの場になったり、家に閉じこもりがちだった方が外に出て会話をするきっかけになったりもしています。単におしゃべりの会でもなく、かといってカチンコチンとした、社会奉仕の会でもない。そのバランスを上手にとって、30年以上も続いてきた「つみくさ会」なのです。

中学生の頃に読んだ「赤毛のアン（アンの愛の家庭）」には、寄付のためのキルトを作る会に集まった人達がおしゃべりに花を咲かせる話がありました(\*1)。

# ● 手作りボランティア つみくさ会

1986年、塩山市（現・甲州市）にて、使わなくなった浴衣でオムツを作り、病気の家族がいる家庭に届けるボランティアからスタート。

在宅介護の連絡ノート袋、食改さん（食生活改善推進員）のエプロン、福祉施設の清拭布等、各方面から依頼されて作った品は何千点にもなります。

毎週木曜日の午前中に集まって寄付された着物等をほどこし、それぞれが家で作った作品をバザーで販売。収益金を「赤い羽募金」に寄付しています。



甘草屋敷の売店で作品販売を始めた頃  
2007年、善行賞の受賞記念



2016年、武田陣中ほうとう祭りとお日川ダムへ



↑20周年のお祝い。萩野前会長を囲んで。



昔から、特に女性は、手仕事をしながら、おしゃべりをし、人との関係を築いてきたのだと思います。ファミリーズトークやSNSでのやり取りが主流になっても、顔と顔を合わせ、手を動かし、社会と関わりながら、人と人とのつながりが生まれる場が、この時代も続いてほしいなあと思います。



↑2016年のおひらちい祭り

# 1 つみくさ会のおゆみ

昭和61年コテージより「オムツ作りをしてくださるボランティアの呼びかけがあり萩野さんはじめ数人の方が応じ、古くなった浴衣をリサイクルして「オムツ」にしたいのが最初でした。その頃はボランティアビューローひなく塩寿荘の小部屋で作業を始めた時に、人々の豊かさ温かさと実感1ながら充実感に満ちたボランティアでした。

ボランティアの語源はボランティアス(voluntaria)から来ていると言われています。自らの意思で見返りを期待しない社会貢献という意味があるとされています。

「つみくさ会」のささやかな社会貢献の第一歩はそこから踏みだされその足跡を継承しつつ今日に至っています。それを事項別に記述いたします。

昭和61年「オムツ」作りの作業を始める。

旅館から古い浴衣を頂き「オムツ」にリサイクル。市内の病人を抱えている家庭の希望により差し上げました。

昭和62年 およらよい祭り福祉バザーに参加した。

手持ちの布、毛糸等で作った作品を販売しました。収益金は社協に寄付しました。当時ボランティア委員会に於てボランティアビューローの建設を、との声がありその基金づくりのバザーでした。

平成2年 およらよい祭り福祉バザーに出品する為 お互いアイデアを持ち寄り 作品を増やし参加した。

縫製工場のご協力を得て頂いた。端布は大変有難い思いです。

※ 終りに「つみくさ会」のネーミングについて萩野前会長はこう話されました。ネーミングについて考えを巡らせていた折に学校帰りの子供達が草花を摘んでいる姿を目にした。ご自分の奮りし幼い日を思い浮かべながら……そうだ……「つみくさ会」という名前には……根を大切に草花を摘み又来る年も花が咲くように。との思いがそうです。その思いを継承し更なる発展を願いつつ「つみくさ会」のおゆみを認めました。

「つみくさ会」のおゆみを長く時 諸先輩のご協力がなければ語り伝えることも叶わずに過ぎ去っている事と想います。改めてご協力に感謝申し上げます。

平成17年3月 小佐川

事務局より参考にお貸りした冊子

福祉活動計画 平成4年4月出版

社会福祉 塩山福祉協議会  
法人

平成2年の福祉大会にて

「つみくさ会の歩み」と題し 桐原さん 発表

評として

市民祭りに併せて ボランティアが丹精こめて作った品と販売しつれも残り布、残り毛糸を利用 市民の関心も高く毎年売れと記している。

→

平成3年 グループ名を社協に登録。つみくさ会とする。

2 定例日を毎週木曜日としバザーへ出品する作品作りをはじめに。

平成4年 作業場が塩寿荘より保健福祉センターに移転 保健福祉センター完成に伴い社協事務局が二階に設置され作業場所はセンターの老人工作室となり広いスペースで作業が出来ると大喜びしました。

平成5年 建設基金は廃止される。

およらよい祭り福祉バザーの収益金は基金廃止により社協に寄付しました。

平成10年 敬老の日にプレゼントする。

9月15日塩寿荘開放の日に利用者全員に(以前はソックスバー、現在はせんざく袋)プレゼントすることにしました。現在も続けています。

平成12年 田消防署跡に移転(現在地)

介護保険導入により保健福祉センターが手狭になり社協事務局が移転「つみくさ会」の作業場所も現在地で行う事となりました。

平成14年 ロタリークラブより表彰される。

塩山ロータリークラブ30周年記念式典に於て功績を評価され表彰されました。

同 年 連絡ノート入れとお手玉を作る。

介護に携わる看護師さんの要望により介護保険利用者用の連絡ノート入れを1,000枚ほど作りました。大変な数

3 でした。皆で頑張る利用者さんの氏名を書き終え仕上げました。又リハビリ教室で使うお手玉50ヶ入りも5袋納めました。

平成15年 清拭布を寄付する

介護に携わる看護師さんの要望により持ち寄りした布、寄付に頂いた布を使いより大きめに裁きました。現在も続けています。

同 年 ひな飾りと桃の花祭りに出品

甘草屋敷で行われた第2回ひな飾りと桃の花祭りに技能を持つ3名の方がモモ子ちゃんを作り花を添えました。とても人気があり好評でした。<sup>(高橋)</sup>

売店で販売していたのに収益金は社協に寄付しました。

平成16年 保健福祉に協力し、

保健師さんからの要望があり袋物等を作りました。その他出前相談の赤、黄、緑のエプロンを、恵信71号地区のボランティアグループの要望であやりの紐等を作り喜ばれました。

同 年 第3回ひな飾りと桃の花祭りに作品を増し協力しました。<sup>(お玉)</sup>

1986年～2004年の

「つみくさ会」の記録

先生をされていた小佐川さん手書きの記録がすぎて、その表を使わせていただきました。



## 糸と針があれば

子どもの頃から好きだった手仕事を通じて、  
たくさんの仲間と出会ってきた長谷川さん。  
80歳を過ぎても、手仕事ボランティア「つみくさ会」の会長として、  
手を動かし談笑しながら皆が元気になれる場をつくっています。  
真面目に、でも気負わずに楽しく、絶妙なバランスでグループを  
まとめている長谷川さんの人柄に惹かれ、お話を聞きました。

**長谷川ひとみさん** [昭和11年生まれ] 山梨県甲州市在住



長谷川さんは、山梨県中部に位置する八代町(現・笛吹市)の生まれ。小学生の頃にお父さんを亡くし、お母さん、おばあさん、三人の弟さんと暮らしていました。

メンコや竹馬等、男の子の遊びも一通りこなしつつ、裁縫や読書にも夢中な子どもだったそうです。

### 裁縫と読書

糸と針があれば退屈しない子どもだったの。父が早くに死んで、母が現金収入について、手編みの学校に行って注文を受けて編むようになったのね。そうしたら、母が編んだ物を、私がかがったりするのよね。一枚いくもらって、それで本を買(笑)。祖母が着物を縫ってる隣りで、運針させられたり。けっこう楽しかったですよ。

父も祖父も、学校の教員だったん

でね、本が家にいっぱいあったから、わかってもわからなくても暇さえあれば本を読んでいた。小学生全集なんてのを読み終わって、読む物がなかったから、父の蔵書をのぞいて夏目漱石の「坊っちゃん」なんかを読んでいた。ませたのね。意味がわかるとかわからないとかじゃなくて、字を読んでもればよかったの。

昭和二十年七月六〜七日の、甲府空襲は、長谷川さんの家からも見えたそうです。

### 空襲の夜

雪の降る日に空襲があつて、家は大丈夫だったけど、終わってみたら畑に焼夷弾が落ちこつてた。ちょうど部落の境目だったから、家の先はかなり畑があつて、次の集落だったのね。その通り道ずうつと落ちたの

よ。だから、きつと落として帰らなきゃ怒られるから落としていったんじゃないかって思う。甲府の空襲とは別の日にね。

甲府の空襲の時なんかも、おじさん達がいる家は山の方に逃げたりしたのね。うちは女所帯だったから、それでも急いでご飯だけ炊こうかって。トイレの窓から見たらもう西の方がほんとに明るくなってきたのね。畑の石垣に腰掛けて眺めて、来たら来たでしようがないやつて。

### 隠れキリシタン

中学の3年まで、教会の日曜学校に行つてたの。本の読み聞かせとか、ちっちゃい子どものお世話もしたりして。だから、けっこう物の考え方なんかにそれが影響あるのかな、なんて思つて。教会って言つても、私が行き始めた頃は、牧師さんが自

分の自宅を開放して和室でやってたのね。私が中学の頃かな、やっと小さい教会ができた。

高校で新聞部に入って忙しくなったのと、大人の礼拝に出る年になったのね。それで、もう続けられないなと思って。でも隠れキリシタンだっって言われてるの（笑）。

高校を卒業した後、叔母と一緒に上京して、私は出版社に勤めて。出版社で制作していた大学受験講座っていうラジオの録音室にいたんですよ。講師の先生達のお世話をしたり、放送局へ出す書類を書いたりしていました。

それで、ぼつぼつ結婚しようという時に、そばにいた人と結婚して。職場が一緒だったんですよ。見る目がなかったって、お互いに言ってます。今になって（笑）。

子育て時代を過ごした、神奈川県横浜市の大きな団地では、五十年も続くことになる仲間との出会いがありました。

### 縁側のような場所

子育てが一段落するまでは、刺繍とか編み物とかパッチワークとかしていたんだけど、子どもが幼稚園に行くようになって、ちゃんとやろうと思いだして、手編みの講師の資格を取って、その仲間ともう少し何かやろうっていうんで、フランス刺繍の学校に行って教える資格を取りました。

子どもの頃は、教員の家だったから、しょっちゅう誰か来てたのね。その頃に住んでた家は南側が全部縁側で、本当に「縁側カフェ」（\*2）みたいなもんでね。おばさん達がお茶を飲んだり、子どもが勝手に

遊んでたりって家だったから、私は人が家に来るっていうのが割りと平気。

幸いなことに主人がずっと仕事で忙しかったから、団地でも、うちでは集会所みたいになっていたの。子どもを無事に育てあげたのは、皆そういう状態の家庭ばかりだったからかもわかんない。集まってよく話したのね。主人が仕事であてにならないかわりに、友達が皆あてになった。

そういう人達に巡りあえたっていうのも運が良かったと思う。でも、お酒も飲んだね。昼間にワインとか。それで、子どもが帰ってきたら「瓶だけ隠せ〜」とかね（笑）。

### 「つみくさ会」に出会う

主人が定年退職をしたのを期に、山梨か長野に引っ越そうよって言

い出して、一ヶ月で決めちゃった。

塩山に引越してからは、古い付き合いの人から刺繍の作品を頼まれたり、お金にはならないようなことを時間つぶしにしていた。従姉妹が市役所において、私がダラダラ暮らしているのを見かねて、「つみくさ会」があるよって教えてくれたの。どんなものかなって思って、まだ足も丈夫だったから歩いて見に行ったら、もうその日にこき使われて（笑）。今より厳しかったけど。もうちよつとねえ、上を目指してたの。私達が引き下げたのかもしれない（笑）。

昭和六十一年、「つみくさ会」は、古い浴衣でオムツを作り、塩山市（現・甲州市）の病人を抱える家庭に配ることから始まりました。

翌年から、およつちよい祭り福祉バザーで作品を販売し、収益金を

社会福祉協議会に寄付。以来、三十年以上に渡って、数多くの作品を作ってきました。

### 必要な物を必要としている所へ

バザーで売るくらいの物を作れるならって、食改（食生活改善推進員）の緑と赤と黄色のエプロンを何百枚も頼まれたり。介護保険が始まったら、介護の連絡ノートを入れる袋を千枚とかね。

仕事じゃないのよ。ボランティアで。たまたま、その介護保険の仕事を私の従姉妹が主になってやっていったから、「ボランティアでいいけど、いくらなんでもお菓子くらいもつてきなよ」って（笑）。そんな馬鹿なことをいいながらも、必要な物を必要としている所へ届けられればいいと思ってるの。



作業の後には、お茶菓子や漬物等を持ち寄っておしゃべりするのも楽しみ。



木曜日午前に甲州市役所地下で行われている「つみくさ会」の定例会。材料の着物をほどこいたり、バザーの準備をします。

現在は、木曜日の午前中がつみくさ会の活動日。バザーで売る作品の材料にするため、古い着物をほどこきながら、和気あいあいとおしゃべりに花を咲かせています。

### 人とのつながりの中で

今、つみくさ会の登録メンバーは二十人くらいです。

木曜日に来られないけど、仕事はしてくれるって人もいるのね。これはあの人じゃなきゃ作れないっていう物がある。そういう人達を大事にしたい。一番の働き手も、家で仕事をして娘さんが届けてくれるのね。皆、その荷物は楽しみなの。お金よりも、楽しみの方が大きい。病院とかで、つみくさ会の手提げ袋を見かけたりすると、皆嬉しいって言うのね。

他のボランティアをやってる人

とも、ボランティアでつながったりする。つみくさ会で使いきれない、袴とかはなんてんを「よつてけし」(＊3)で売ってもらったり。

東北の震災の時は、被災した人達が刺し子の布巾を作って、売って新聞に出たのね。糸をほしって言うんで送ったり、着物で喪服を作りたいというグループにも送ったの。人とのつながりで自分の好きなことができてるのが一番幸せかなと思うのね。

### 最後まで自分でいたい

うちの母、最後は何をしてたかと言うと、あやとりの紐を編んでた。やつぱり何か糸をいじっていたかっただのね。せつせと編んで自分の行っているデイサービスへ持って行ってた。

母は九十七歳で亡くなるまで、べ

ットに座って自分でご飯を食べてたのね。母と一緒に住んでいた弟から、「今日でご飯いらないうつて言ってるから」って電話かかってきたの。

お医者さんに来てもらったら、「もう老衰だから本人が食べないって言えばそれはそういうことです」って言われたのね。そして、翌朝に死んだの。自分で決めたんじゃないの。だから、いくつまで生きようとかじゃなくて、最後まで自分でいたいって思うね。欲張りかもわかんないけど。

### もうひとがんばり、次の人達へ

やつぱり一番大事なのは、人との出会いだと思ってる。私達の年になると、だんだんいなくなっちゃう人がいるんですよ。毎年ひとりかふたりずつ。新しい出会いもあんまりなくなってくるのよね。だから、つみ

くさ会の人達なんていうのは宝物。皆いい人達なのね。個性はありますけどね（笑）。悪意はない人達ばかりだから。結局、手仕事もだけど、人が好きな人達だと思うの。つみくさ会でいいなって思うのは、会員の人達が仲間を大事にしてるってことね。言いたいこともいうけど、それが後に残らない。

私、リリーさんがいることですごく助かってる。言いたいことを平気で言う。そのかわり仕事もバリバリする。で、わたしに向かって言ってくれるからいいの。「あなたがしっかりしないから!」「そうね」って（笑）。そういう人と巡り会えたことが、幸せだと思う。

やっぱり、山梨の人達の無尽（\*4）っていうのは、ぼけ防止になってるよね。嫌でも外へ出てしゃべるじゃないですか。つみくさ会だつて

ただの無尽だと思えばいいのよ。そんなにいるんなこと背負わないで。いつまでできるかわからないけど、もうひとがんばりかな。次の人達のためにも、ちゃんと残していきたいなあと思う。



リリーさん（左）と長谷川さん。勝沼の「沢楽の道 縁側カフェ」の一つ「やまいち」にて。「やまいち」では、つみくさ会の作品の販売もしています。



年に1~2回の食事会。「やまいち」で味わう三枝貴久子さんの手料理とお話が人気です。



およっちよい祭りで作品を販売。売上は甲州市社会福祉協議会を通じて「赤い羽根募金」に寄付されます。

# 大嶽山 那賀都神社

「勇者ヨシヒコ」に出てきそう！

初めて那賀都神社を訪れたのは、夫と二人、2015年1月9日の夕暮れ時。駐車場から神社まで、誰もいない山道を、いったいどこまで続くのだろうと思いつつ歩きました。当時、夫婦ではまっていたテレビドラマ「勇者ヨシヒコ(＊5)」の張りぼてスライムが、ひよっこり飛び出して来るんじゃないかと、不謹慎にもワクワクしながら、ちょっとした冒険のようなお参りでした。

再び訪れたのは、子どもが生まれ一才を過ぎた2017年1月4日。お正月の昼間だったこともあり、駐車場はいっぱい。前回と打って変わって、たくさんの人でにぎやかでした。すれ違



だいたけせん なかるとじんじや  
大嶽山 那賀都神社

山梨市 三富上釜口617

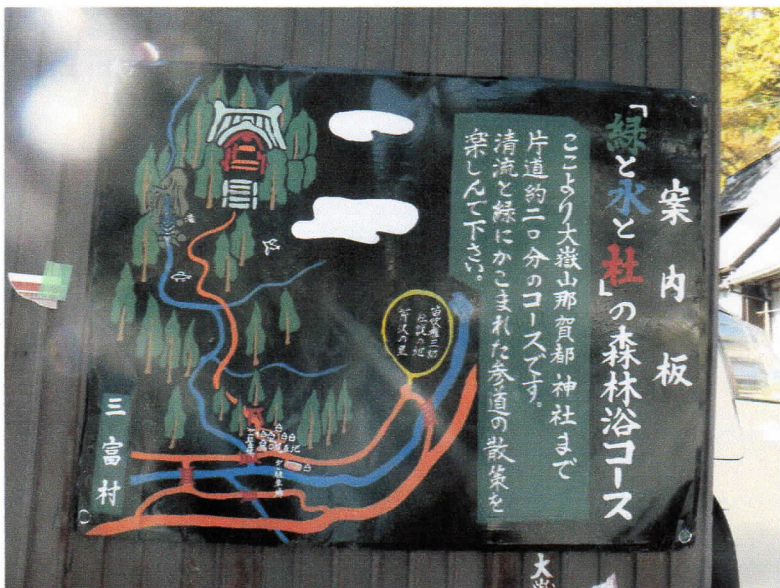
<http://www.sanwaj.co.jp/daitakesan.htm>

西沢溪谷近くにある、脩験道場の面影を残す、古い歴史を持つ神社。

大嶽山のふもとから社殿まで徒歩20分ほど。

細い車一台分の道を通り、

ちょっと不安になった頃に看板が見えてきます。



う方達と「おめでとうございます」と  
 声を交わすのも楽しく、ひんやりとし  
 た山の空気を吸い込みながら、清々し  
 く温かい気持ちになりました。

同じ年の11月には、東京から来た母  
 と、お散歩大好きになった息子と三人  
 で、紅葉狩りも兼ねてのお参り。あっ  
 ちこっちフワフワする息子の動きに  
 ハラハラしつつ、赤や黄色の葉で鮮や  
 かに彩られた山道を歩きました。急に  
 強い風が吹き、色とりどりの葉が山の  
 高くから舞い落ちて来た時は、ほうっ  
 とため息をつく美しさでした。

神社までの長い道のりと、その景色、  
 川の流れる音、ひっそりとした空気感。  
 日常を離れ、心洗われる空間がそこ  
 にはあります。木々が芽吹き、春の訪  
 れを感じる季節に、青葉が茂る頃に  
 涼を求めて……。何度でも訪れてみた  
 い場所になりました。



1才のとき



ほほ  
2才のとき

↑ 2才見と一緒に大人2人いないと大変  
 行きは歩き、リターンは無理矢理ベビーカーを押しました。

本殿へ登る階段



初めてのとき。旗を書かせていただきました。



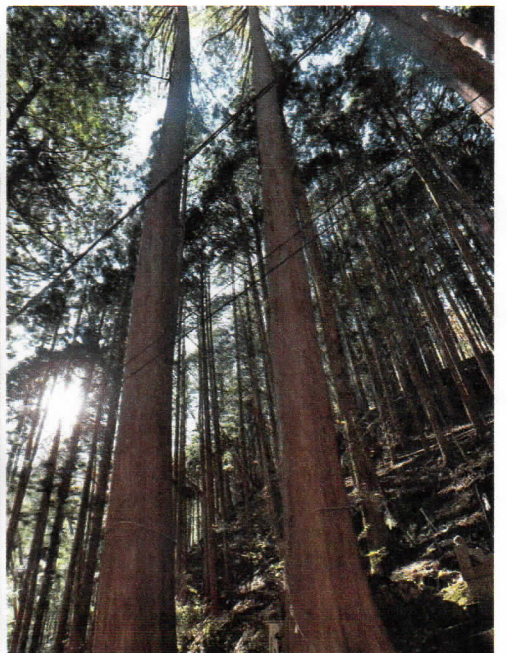
坂や道に名前がついていたり、説明の立て札があちこちあったり楽しい 「〇丁目」でどこまで来たかわかる



階神門の天狗

階神門

樹齢数百年の古木が並び





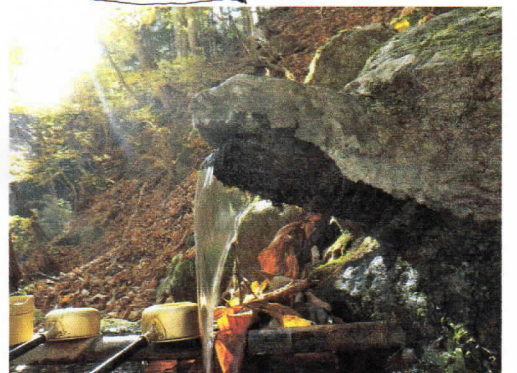


道中の天狗  
那賀都神社では天狗が神様のお使い



↑ 道の脇には「奉納 大嶽山 那賀都神社」と書かれた手作りの小旗がたくさん。雨をよけるように、岩の下や木の根元に置かれている。この神社を訪れた人々の思いを感じる。

亀の手水石



# 憲法前文を“そうぞう”する

～ 2才になる息子のために書いてみた、わたしの憲法前文。～

山梨のおかへちゃん 版

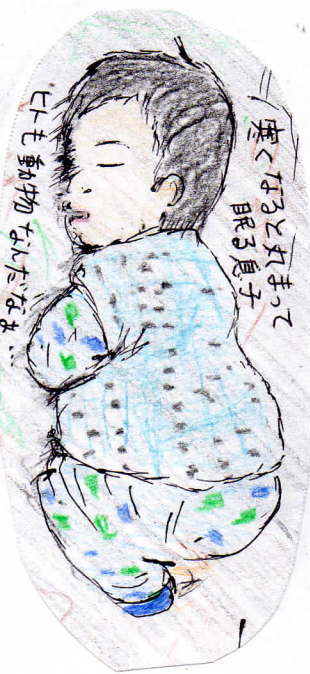
ぶどう農家の夏ってえらいけど、こびっと働いて、おいしいぶどうを作りたい。秋になったら、旅行したり、おいしいもの食べたり、ちよこつとゼイタクしたい。君が大きくなったら、将来の夢をできる限り応援してあげたい。心配事は、親しい人のケがや病気、自然災害だけでもうたくさん。人生には避けられない悲しみもあるけど、忙しくて穏やかな暮らしがずっと続いてほしいし、自分以外の人達みんなにもそういう暮らしがあってほしい。

そのためには、世の中が平和でないとダメじゃんね。君のひいおばあちゃんが若かった頃、日本は周りの国と大きな戦争をして、たくさんの人が死んで、たくさんの人がつらい思いをした。その大きな戦争の後に、「一部の人間で国の大事なことを勝手に決めなすし」「戦争なんて、だっちもねえこんはぶちやっちめえ」「国と国同士の問題だって暴力以外の方法で解決しよう」「人間がもともと持っている、他の人を思いやる力を信じるじゃん、そう、たくさんの人が思ったんだ。国の未来を決めていく大事な力は誰でも一人ひとりが持っていて、世界のそれぞれの国が、他の国のことも大切に、

暴力や差別や乏しさに苦しむ人がいない、そんな未来の方へ進んでいこうって日本は決めたんだけよ。

長い道のりだけど、時代が変わっても、あきらめず一歩一歩進んでいくために、この憲法をつくらしたんだ。この憲法と違うことを言っている。ルールは、日本では守る必要はないよ。人間は過去の悲しい経験から学んで、違う未来を選んでいける。

ぶどうや桃畑が広がる美しい風景の中で君達も、その次の世代も、穏やかな暮らしを続けていける。そう信じて、自分のできることをこつこつとやり続けることをあかへーちゃん、は折言います。



海へ出るアサギ、眠る息子、トモ動物たちだ。

# 日本国憲法前文

読んでみよう

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。

これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いつれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し他国と対等関係に立とうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

## なぜ「そうぞう」?

およそ一年前、知り合いの方が憲法前文を甲州弁に訳し、その朗読を聴く機会がありました。そして思い出しました。東京の実家にいた頃に読んだ、月刊「母の友」に、とても心を打たれた文章があったことを。

もう一度読みたい! 東京の実家に帰った時に探してみました。朝4時に起き、子どもが寝ている間に、たくさんの「母の友」を一冊ずつ確認。2日目の朝、再び懐かしの記事を目にした時は、感激でした。

それが「憲法をそうぞうする」という特集。その特集を読み返すうち、自分も「そうぞう」してみようと思ったのです。今の自分の立場で、憲法前文の伝えたいことを「想像」し、自分の言葉で「創造」してみる。それが、最初に紹介した文です。

甲州弁ネイティブではないので、まちがっているところもあるかもしれませんが、無理して使ってみました(汗)

## 母の友

8

### 「母の友」2004年8月号 福音館書店

『私から始まる憲法前文』というタイトルの「自分のことばで憲法前文を書いてみよう」という記事。そこで紹介されていた高校一年生の男子が考えた『ごはんを食べて歯を磨いて、... (中略) ... そんな平凡な「日々」がとても大切な「一日」なんだ!』

という「日本国憲法前文」が十数年も私の心の中に残っていました。

年齢なのか、あれもこれもと長くなり、なかなか高校生の様な思い切りの良い文にはなりませんでしたが、「前文」の言葉、一つひとつと向き合う作業はとても貴重な時間でした。



本やマンガや映画があります。

そういう物の一つを手にとってみる。いろんな立場の人の、いろんな意見を聴いてみる。そして自分で考えてみる。それが、私達より前の世代の人が、とてもたくさんのエネルギーを費やして積みあげてきた、今の私達にとっては当たり前な「幸せ」を、次の世代にもちゃんとつないでいくための、はじめの一步だと思います。

こんなことを、わざわざ書くのも耻ずかしいことかもしれませんが、それでも、私が甲州弁の憲法前文を聴いて、子育てでいらはいいはいの生活から、顔を上げて周りを見ようとする力をもらったように、誰かの何かのきっかけになれば...と思い、書いてみました。

最後に、私がわかりやすいと思った本等を紹介します。

書店で、図書館で、手にとってもらえたら嬉しく思います。

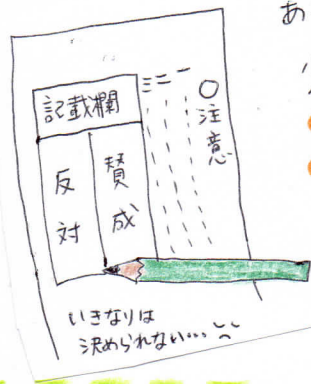
## ● 憲法を改正するには?!

日本国憲法の96条に改正について書かれています。

その流れを、私なりに説明すると...

- ① 国民投票にかける憲法改正案について国会で話し合う。
- ② 衆議院・参議院ともに、国会議員全員のうちの分の2以上が賛成する改正案がある。
- ③ 国会で、それを国民投票にかける憲法改正案に決定する。(部分的に〇か×が決められない)
- ④ 国民投票で半分以上が賛成の場合は、その憲法改正案が、新しく日本の憲法になる。

早ければ今年中に憲法改正の国民投票があるかもしれません。

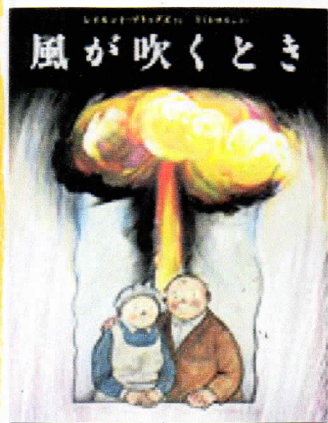


少なくとも...

- 今の日本国憲法をじっくり読む
- 与党である自民党の憲法改正案をじっくり読む

は、やっておかないと...  
と思っています。

↳ **自民党 憲法改正案** などで検索すれば、すぐ読めます。



## ● 風が吹くとき

レイモンド・ブリッグズ作  
さくま ゆみこ 訳  
発行所: あすなろ書房

私が生まれた1982年に出版された作品。小さい頃、ブリッグズ作の「守むが

りやのサンタ」や「スーマン」が大好きでした。この本のことは、よくわからない地味な本と思っていました。今読むと心にしみる大切な一冊です。同じ絵本の棚に、「守むがりやのサンタ」も「風が吹くとき」もあったこと。子どもの世界にも、そういう本がなんとなく手に取れるところにそっと置いてあったこと。よかったなあと思います。



## ● 日本国憲法 大阪おばちゃん語訳

著者: 谷口 真由美  
発行所: 株式会社 文藝春秋

憲法を読むのに、とにかくわかりやすい本を...と本屋さんで探していて、見た目のインパクトで手に取った一冊。「よ分かん? ほな、おばちゃんと読ん

でみましょ!」と、大阪のおばちゃんに話しかけられている感覚で、それぞれの条文の意味がすと頭に入ります。「内閣まとめて、とーん!」とか、あっけらかんとしながら、あちこちにハッとする鋭いツッコミが入り、とんどん読めてしまう本です。

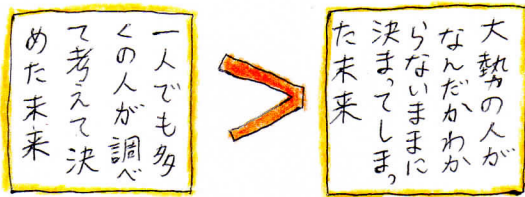
# 編集者の たわごと

(これはページ調整のために書いたたわごとです)

## まずは知ること

憲法のことを調べ始めたからといって、憲法改正に賛成、反対と簡単には言えません。どんな物の、どこを、どういう風に変え、それが私達の生活にどう影響するのか、まだまだわからないことだらけです。

ただ、これだけは言えると思うのは、



きっとそれが、自分の将来や、次の世代のためになるのだということです。

だから、夕ごはんのおかずが減っても、部屋がとちからなくても、今日はこの本を読もう、この映画を観ようということが、今、大切だと思えます。(半分はいい訳か...?!)

## ぎゅゅとしててね

ちょっと前、国際的な映画の賞を受賞した女優さんが、ホテルの中で安心してしまい、パスポートの入ったバッグを盗まれ、帰国できなく

なってしまったというニュースがありました。

ふと、今の私達と憲法のことみたいだ...と思いました。

憲法のことを調べるようになって感じるのは、今の私達の生活そのものが憲法だということです。

住む場所や仕事を選べるのも、性別にかかわらず学校や選挙に行けるのも、昔から当たり前だったわけではないということ。そういうことが実現する世の中になったらと思い描き、力を尽してきた人達がいて、それが積み重なって私達の今の生活までつながっているのだと。

今の生活を当たり前と思い、日々の雑事に追われることは(仕方ないことでもあるけれど)、パスポート入りのバッグを椅子の背もたれにかけて手を放してしまうことなのかもしれません。突然、それがなくなったとしても、そんな大事な物をほったらかしにしていたからだと言われてしまうのかもしれません。

だからぎゅゅとバッグの紐を握ってしよう。自分の目の前にあることから時には顔を上げて、世の中を見回そう。過去を振り返ってみよう、と思います。

昔と違って、今の私達には、たくさん知る手段があります。子どもにもわかりやすく、世界のニュースや過去の戦争のことを説明した

## ひと目でわかる 日本国憲法 MAP

定価：180円

発行所：かたりな

連絡先：kyou@kcnnet.ne.jp

購入したい方は  
コチラへ☑

憲法って分厚い一冊の本くらいあるんじゃないの?というイメージが、えっ!これだけにまとまるんだとびっくり。

それぞれの章が憲法の中で持っている役割を表わすようにデザインされていて、ぱらと見て、憲法ってこういうものなんだなとつかみやすくなっています。

第3版には、付録として甲州弁訳憲法前文や方言訳の憲法本特集が載っています。

第3版特別付録  
★甲州弁訳 憲法前文  
★方言訳の憲法本特集

ひと目でわかる  
日本国憲法  
MAP

うんたーは、  
平和をねがいやす。

～憲法前文を甲州弁訳してみました!～

# まわし読み のページ

シリアルナンバー

「こびと通信17号」を読んでいただき、ありがとう  
ございます!! 30部しか刷れなくても、1部を10人が読めば、  
 300部刷ったのと同じこと... という無謀な計画のもとに、  
 「こびと通信」は「回し読み、大歓迎!!」としています。  
 そして、この通信を読んだ記念に、何か、お名前・感想など  
 残していただけたら... と思います。イニシャル・ニックネーム・  
 お住まいの地域・この記事が良かった・こんな内容も読みたい等、  
何でもかまいません!

次の読み手に  
つないでいただけ  
たら嬉しいです(笑)

お名前 N.S.	地域 山梨
感想など こんな感じで	

スタート 3

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

お名前	地域
感想など	

**ゴールの方へ**  
 もし、知り合い  
であれば...  
 何方のついでに塩ノ山舎  
 メンバーに渡していただくか、  
 このページをスマホなどで  
 写真に撮って送っていただ  
 けたら嬉しいです。m(-\_-)m  
 contact@  
 shihonoyamasha.  
 com

※塩ノ山舎のHP.  
 Facebookに掲載させていただくこと  
 があります。22

## 言葉の説明

本文中では説明しきれなかった言葉を紹介します。

\*1 「赤毛のアン（アンの愛の家庭）」（P5）…カナダの作家モンゴメリが1908年に発表した長編小説。日本では、甲府出身の

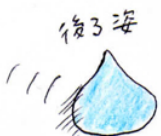
村岡花子が翻訳し、NHKの朝ドラでも「花子とアン」として取り上げられた、山梨と縁のある作品です。私が読んだのは掛川恭子訳のものです。そのシリーズ6作目「アンの愛の家庭」に、アンの家で婦人会のキルト作りの会が開かれた時の、村の女性達のうわさ話がリアルに描かれています。あらためて読むと、よくまあこんなに個性豊かな女性達とうわさ話を創り出せるものだなあと感じます。

\*2 縁側カフェ（P10）…古民家の縁側を開放して、お茶や食事を提供する「縁側カフェ」。定期的・イベントの一環として、普段は農業等をしている家の縁側で、地元住民との交流を目的に、お茶とちょっとしたお茶うけを提供する場合。本格的にカフェとして営業している、「古民家カフェ」と同じ様な意味で使われる場合等、幅広い意味があるようです。

\*3 よってけし（P12）…塩山駅近くの中央通商店街にあるコミュニティマーケット「よってけし」。甲州弁で「寄っていきなよ」という意味。観光案内所・休憩所であり、地域の方の憩いの場でもあります。空き店舗を利用して地元のお母さん達が運営しています。

\*4 無尽（むじん）（P13）…山梨県では、飲食店で「無尽承ります」という張り紙を見かけることがあります。元々は鎌倉時代からある「金融の一形態」という大層なものみたいですが、今の山梨では、定期的に同じ趣味・地元の仲間が集まって呑んだり、毎月決まった額のお金を積み立てて旅行に行ったりする事のように使われます。

\*5 勇者ヨシヒコ（P14）…テレビ東京系列で放送されていた山田孝之主演の連続テレビドラマ。国民的人気のロールプレイングゲームの世界が下敷きになっていながら、妙に和風だったり、手作り感溢れるモンスターが出てきたり、低予算な感じがなんとも言えない味となり、ハマってしまうドラマです。



# 塩ノ山舎のしくみ

「塩ノ山舎」は、山梨県峡東地域を中心に、地域に根ざした情報を(役に立つことから)マニアックなことまで、心を込めて、印刷物やWEBで発信します。

「塩ノ山」は甲府盆地の東端にぽっかり浮かぶ、標高500m(約)の小さな山です。見る場所によって、様々な形になる塩ノ山。物事をいろいろな角度から見ることを大切に、こじんまりと地域の方に喜んでもらえる物づくりを心がけようという気持ちを含めて、グループの名前にしました。



2015年に塩ノ山舎でつくった仁丹ゼリー集 200円

雪の日の塩ノ山



# あとがき

「こび」と通信」は、もともと甲州市地域おこし協力隊の時に、活動紹介として作っていたものです。なせもう一度、発行しようと思ったかと言っと…

NPOの会報作り、学生時代の「エコ手帖」、地域おこし協力隊での「あの人に会いに」。思えば20歳の頃から、人に話を聞いてまとめるといふ作業を、素人なりに続けてきました。おそらく、50人以上？

自分がいいなまと思っただ人の話を聞いて、他の人にも読んでもらえる形にする。それを続けていけたらと思うものの、協力隊の時の様な、時間も資金もない。せつかくいお話を聞いても、冊子になる量をまとめるまで、数年かかってしまう…

そこで考えました。1と2人のお話に、おすすめの情報に加え、年1回くらい、人の目に触れる形にしよう。たくさん印刷できないので、回し読み歓迎！にしよう。ゆっくり作る分、移り変わりの早いものではなく、長年続いてきたものにとりあげよう。色あせない記事を目指そう。

そんなこんなで、「こび」と通信」ができました。農閑期の作業と子育ての合間を縫って、ほぼ一年かかり。果たして、何冊か、こういふ人達に読んでもらったよ」と、その行方がわかるのか?! 苦肉の策におさまっていただけたり幸いです。

## 編集者の自己紹介

1982年、東京都国分寺市生まれ。20代、森林ボランティアを中心に活動するNPOで働く。2011年9月に山梨へ移住。

「甲州市地域おこし協力隊」として約3年間活動。今は、ぶどうづくりに携わりつつ、聞き書きをライフワークにできたらと模索中。



## こびと通信 17号

2018年2月5日 第1刷 30部  
発行所 塩ノ山舎  
<http://shihonoyamasha.com>



お問い合わせ  
[contact@shihonoyamasha.com](mailto:contact@shihonoyamasha.com)  
編集者 須田直葉